

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月27日
函館市立あさひ小学校

1 本年度の重点教育目標

・ひとりでできる みんなとできる 明日に向かって 学びをつなぐ

2 本年度の取組の重点

・社会に開かれた教育課程の実現に向け、コミュニティ・スクール（青柳ネット）による協働体制の下、本校の教職員の協働意識を高め、グランドデザインに基づいた学校運営とカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）	
①確かな学力を育む教育の推進	・めあて・まとめ・振り返りを1単位時間の学習過程に位置付けるとともに、1人1台端末等 ICT を効果的に活用し、学習内容の定着を図ることができたか。	b	・対話的で深い学びの実現を目指し、言語能力の更なる育成に力を入れていく。	B	A	・ICT 活用が更に進むことを期待します。
	・学習規律や教室環境整備等について、ユニバーサルデザインの視点で改善することにより、児童の安心・安全な学びや授業改善の充実を図ることができたか。	a	・どの児童にもわかりやすい教室環境を全校共通で整え、今後も安心・安全な学びができるように努めていく。	A	A	
②豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	・積極的にいじめを認知する中で、道徳科を中心に授業改善に取り組み、自らを見つめ直し、子どもが多角的多面的に考え、よりよく人と関わる力の育成を図る。	B	B	・体験や、様々な立場の人から直接話を聞ける場を多くしていくことも大切なのではと考えます。 ・学年に関係なく声を掛け合う学校の雰囲気が良いと思います。 ・いじめる人、いじめられてる人にはそのことに対する温度差がある。デリケートな部分でもあるので対応は難しいと思うが逃げてはいけないと思う。 ・「自分がされていやなことをしない、言わない。」を学校全体で取り組んでいる。登校時も遅れている下級生を上級生がサポートするなど道徳実践が見受けられる。 ・限られた場面での見聞しかないが先生方の努力が結実しているように思えました。
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共心、社会性を育むことができたか。	b	・挨拶の励行を基に友達との協働的な学習など人との関わりを通して、よりよい人間関係を築こうとする意識の向上を図る。	B	B	・挨拶ができる子が多く、人の話に耳を傾けることができる素直さがあるように感じています。これからも児童館では小・中学生の成長を見守りたいと思います。 ・「なぜ挨拶が必要なのか」を地域づくりの視点等からも分かりやすく伝えていくことが重要だと考えています。 ・学校に行くと、積極的に挨拶してくれる児童がたくさんいると思いました。 ・挨拶は基本的、社会人になっても1番に絶対必要なものでもあります。 ・来校者や地域の見守りの方々へもあいさつする姿が見られた。 ・全ての学校で訪問時にはすれ違った際に生徒・児童が必ず挨拶してくれるのでとても気持ち良いです。 ・限られた場面での見聞しかないが先生方の努力が結実しているように思えました。

③健やかな体を育む教育の推進	・体育科や休み時間の運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わわせることができたか。	a	・積極的に体を動かし、運動を楽しむ児童が増えているため、今後も継続していく。	A	A	
	・家庭と連携した食に関する指導、食育だより、保健指導、保健だより、外部講師による授業等を通して健康への関心・意欲を育むことができたか。	a	・家庭と連携した健康教育や、外部講師による指導を今後も継続していく。	A	A	
④学校における指導体制等の充実	・「わかる」「できる」授業を進めるために、専科・教科担任の指導、支援員等の活用の工夫を図ることができたか。	a	・専門性を生かした指導や、きめ細かな支援を更に充実し、わかる授業を行っていく。	A	A	・高学年になると、自分自身の学力の向上を目指すようになってくる。
	・グランドデザインをもとに、学校における業務改善に向けた取組を進め、教員の資質能力の向上と子供と向き合う時間の確保を進めることができたか。	a	・業務改善を更に進め、教員の資質向上を図り、子供に還元していく。	A	A	
⑤家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	・青柳ネット(コミュニティ・スクール)の取組を通し、家庭・地域が一体となった学校運営の推進・充実を図ることができたか。	a	・登下校の見守り等、今後も子供の安心・安全の充実に努めていく。	A	A	・校長先生と子どもが朝挨拶を交わしタッチしている姿を見たり、先生が少し迎えに行ったり、安心して通えるのではないかと思います。 ・地域住民を徒歩隊、車両隊に編成し見守りを継続する。
	・家庭・地域・学校が目指す子供像や重点教育目標・学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	・学校通信やホームページ等を活用し、今後もより一層の情報発信に努めていく。	A	A	・学校通信の配布については各学校の児童・生徒の動向がわかりやすく書かれている。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正が必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。